

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 那珂市立横堀小学校 】

1 実践テーマ	I・III・IV
2 実施対象者 (学年・人数)	対象：第4学年 2学級52名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (総合的な学習の時間)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○ 誰もが生活しやすくするために必要なことは何かを考えることを通して、スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築に向けての理解を深める。</p> <p>○ パラリンピアンとして活躍された方の話を聞くことを通して、互いの違いを受け入れ、多様性を尊重する態度を育てるとともに、夢の実現のために努力し続けようとする意欲を高める。</p>
5 取組内容	<p>○ 事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間に学校や公共施設のバリアフリーやユニバーサルデザインについて調査した。 ・パラリンピック競技を各自視聴するよう担任から声をかけた。 ・車椅子ラグビーの競技について学級で動画を視聴し、講演会への関心を高めた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>○ 当日（講演会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日：令和3年10月7日（木） ・講師：三阪 洋行 氏 <p style="margin-left: 40px;">ウェルフェアラグビー日本代表としてアテネ・北京・ロンドンオリンピックに出場。リオ大会ではアシスタントコーチとして、銅メダル獲得に貢献。</p>

- 内容：(1) 始めの言葉
- (2) 講師紹介
- (3) 講演「車椅子ラグビーと私」
- (4) 競技用車椅子でスラローム、タックル体験
- (5) 感想発表、お礼の言葉
- (6) 終わりの言葉



- 競技用車椅子でのスラローム体験を全員行うことにより、車椅子の操作性や乗り心地を実感することができた。また、タックル体験により、競技の激しさを体感し競技への関心をさらに高めることができた。
- 体験後の講師の先生の「どうすればできるか」「違いをたくさん知る」「続けることで夢はかなう」という話は、今後の生き方について考えるきっかけとなった。
- 事後の学習
 - 講演会を通して学んだことや今後の生活に生かしたいことなどをまとめた。
 - 今回の活動を通して、総合的な学習の時間「わたしたちができる福祉ボランティア」での課題を設定し、課題解決に向けての活動を進めた。
- その他の取組
 - 講演会の様子をホームページや学校だよりへ掲載。
 - 茨城新聞や那珂市広報誌への掲載。
 - 同じ学園内の小学校へ講演会の様子をオンライン配信。

6 主な成果

- 東京でオリンピック・パラリンピックが開催されたことで、パラリンピックについての放送も多かったので、パラリンピックについての関心が高まった。特に、パラリンピアンの方から講演会が開催されることを周知していたので、車椅子ラグビーについても興味をもって視聴していた。
- パラリンピアンの方から実際に話を聞いたり、体験したりすることで、子供たちは様々な感想をもち、豊かに表現することができた。また、講師の先生の思いを受け止め、将来の生き方について考えを深めた児童も見られた。
- 車椅子ラグビーの競技ルールや特色を知ることによって、互いの違いを尊重し合うことが大切であることを理解するきっかけとなった。

<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • パラリンピアンから生き方や考え方を直接聞くことで、教科書や本からでは学べない本物に触れる感動を体験できるようにした。 • 競技用車椅子の操作を体験することにより、パラリンピックや障害のある方に対する理解を深められるようにした。 • 小中一貫教育を行う同じ学園内の小学校4年生に、講演会の様子をオンライン配信し、パラリンピアンの方の話を共有できるようにした。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • パラリンピアンを招聘するにあたり、市教育委員会の協力をいただいた。学校単独での講師の選定が難しいので、過去の講演会の講師のリストや様々な分野での人材リストがあるとありがたい。 • 東京大会により、パラアスリートに対する認知が高まった。さらに、障害のある方もともに生きていく仲間として、生活しやすい社会をともに作り上げていくという意識をもたせていきたい。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 4学年の総合的な学習の時間で、今回の講師の先生が話してくださった動画を活用してパラアスリートの思いを伝え、共生社会の実現に向けた思いの醸成を図る。 • 日頃より運動に親しみ、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送ろうとする心情を育てる。